

## 2. 平成 19 年度のサービス概要と業務報告

### (1)個人貸出サービス

豊中市在住・在勤・在学・在園の方を対象に利用者カードを発行し貸出を行っている。利用者カードの有効期限は 5 年間で、各館オンラインで結ばれているため全館共通で利用できる。資料の貸出は 1 人 10 点まで、(ただし映画ビデオ 1 本、CD2 枚まで)貸出期間は 2 週間である。

千里図書館は 1 月 14 日から 2 月 25 日まで臨時休館後、2 月 26 日にリニューアルオープン。

#### <貸出室・一般図書コーナー>

図書館で多く借りられている本は、小説、エッセイ、料理、手芸、ガイドブックなどが多いが、絵本の貸出は小説に次いで 2 番目に多い。一般書・児童書を合わせた世代別の貸出では 30 代(19.6%)が最も多く、40 代(16.8%)、50 代(13.3%)60 代(13.6%)と上位を占めている。また、マンガの貸出の多い世代は 30 代(30.4%)、CD は 50 代(18.4%)、30 代、40 代、60 代の順に多く借りられている。

曜日別の貸出では土曜、日曜が多く、土曜の貸出人数では 220,044 人(22.5%)、貸出冊数は 774,924 冊(23.1%)。日曜日は 216,792 人(22.1%)、774,360 冊(23.1%)。休館日が月曜の館では金曜日、休館日が金曜日の館では、木曜日が人数、冊数とも少ない。よく利用される

時間帯では 16 時台が多く、次に 15 時台と 11 時台である。

図書館を利用する人は生活動線上など生活圏の中に位置する図書館の利用が多いようである。地域別に見ると貸出冊数・貸出人数で圧倒的に多いのは東豊中町と上新田の地域であり、図書館全体の貸出人数の中で 8.7%を占めている。また、他府県、府内他市町村からの利用では全館で 44,122 人。その内千里図書館は 14,805 人、蛭池図書館が 9,325 人、2 館で 24,130 人、54.7%を占めている。これは、広域サービスの試行館であるのみならず、周辺に会社、事業所など多い事と交通の利便性が要因であると考えられる。

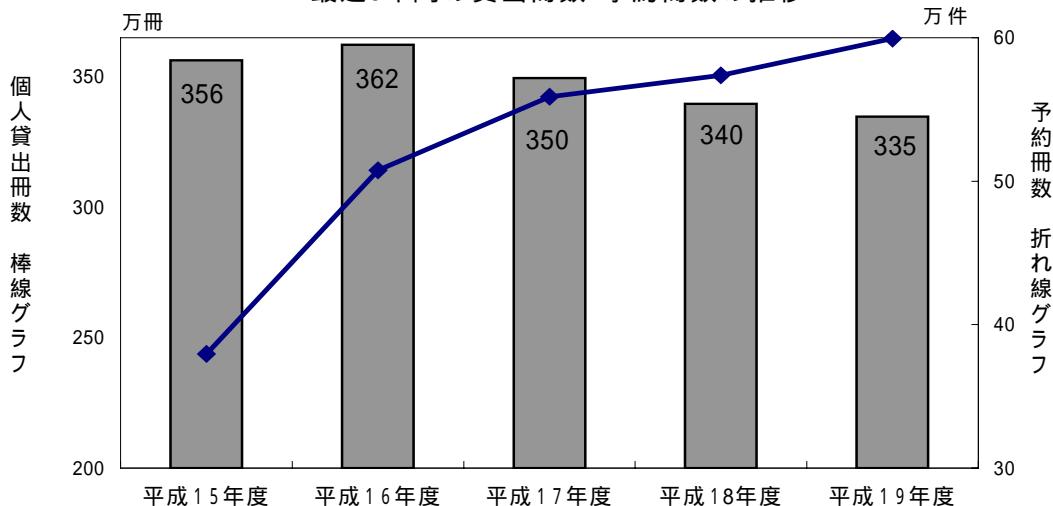
総貸出冊数は 3,465,942 冊、(図書の貸出冊数は 3,039,129 冊)。個人貸出冊数では成人図書 2,071,512 冊、児童図書 861,790 冊。その他資料(相互貸借資料など)を含めた合計では 3,347,745 冊。全館の貸出人数の一般では 811,961 人、子どもは(14 才以下)167,835 人である。また、男女別の利用人数では男性 40%、女性 60%の割合である。

#### <こども室・児童書コーナー>

児童書を最も多く借りている世代は 30 代(22.8%)で、次に 6~8 歳(17.5%)、9~11

歳(14.4%)、0~5 歳(12.9%)と続いている。30 代は親子連れで閲覧、児童書の借出しに来館する人が多く、相乗効果となつて、貸出に上乘せされている。また、貸出冊数ばかりでなく貸出人数の多いのも 30 代である。30 代は 0~5 歳と共に絵本の貸出冊数が

最近5年間の貸出冊数・予約冊数の推移



が多く(49.6%)を占めている。

図書の購入冊数は一般書(32,009冊)、児童書(14,379冊)で児童書の割合は31%であり、図書の個人・団体を合わせた貸出冊数30%とほぼ同等の数字である。貸出人数では一般と比べ子ども(14歳以下)の人数は(17.1%)と少ないが、親、または親子連れでの利用と「子ども読書活動推進計画」に沿った関連事業・諸行事の実施が児童書の冊数を伸ばしている。

**(2)団体貸出サービス**  
放課後こどもクラブ、保育所(園)、幼稚園及び自主的な活動グループで10人以上の利用者を有する団体に資料の団体貸出を行なっている。貸出の期間や冊数は利用団体の種別ごとに定められており、図書館では選書の補助や、必要に応じて配本などを実施している。

#### <子ども文庫への団体貸出>

平成20年4月現在、12ヶ所の子ども文庫があり(うち豊中子ども文庫連絡会「以下豊子連」加入は8ヶ所)それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動を長年にわたって行っている。この子ども文庫に対して、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供するとともに、必要に応じて配本を実施している。

#### <学校図書館>

学校図書館は平成5年度(1993年度)から、学校図書館司書の配置が始まった。

平成12年度までは、主に岡町図書館・団体貸出室がサービスを実施していたが、平成13年度からは各地域館で59校を分担し、団体貸出を行なっている。

また、平成13年の5月から学校指導課の資料運搬システムにより週1回の学校への物流便が始まり、11月にはインターネットによる蔵書検索・予約サービスを開始した。

平成15年度からは学校司書の配置3年未満の学校図書館に対して200冊を上限に読み物などな

の長期貸出を実施している。

平成17年4月には小・中学校59校に学校司書が全校配置された。このため、インターネットによる予約や貸出が増えて、平成17年度の貸出冊数は51,484冊(対前年比25.6%増)となった。平成19年度は46,484冊(対前年比6.6%減)とやや減少した。

#### <その他>

放課後こどもクラブの平成19年度の貸出冊数は11,826冊(対前年比0.6%増)、おはなしボランティアグループは10,872冊(対前年比32.7%増)と大幅に増加した。放課後こどもクラブの配本実施校は前年度から3校増えて36校となった。今後も全校実施に向けて周知を進めていきたい。最近要望が増えているのは保育所(園)、幼稚園への団体貸出であり、平成19年度の保育所(園)の貸出冊数は24,300冊(対前年比3.5%減)、幼稚園2,134冊(対前年比50.1%増)となっている。

#### <読書会>

4人以上のメンバーで読書活動を行なうグループへ本をそろえて貸出を行なっている。会場として集会室等を提供している。

図書館から12の読書会グループに、853冊貸出した。

#### <一般ステーション>

図書館から遠く離れた地域の市民に、“動く図書館”1(含)動く図書館による巡回貸出も行なっている。動く図書館の駐車場所をステーションと呼び、H20年8月現在18ヶ所あり、約4週間に1回巡回している。貸出冊数は1人20冊まで、貸出期間は次の巡回日までとしている。

#### <施設ステーション>

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、“動く図書館”が巡回し、資料の貸出を行なっている。平成20年4月現在、保育所4ヶ所・簡

易保育所 1ヶ所・支援学校 2ヶ所・障害児通園施設 2ヶ所へ約 4 週間に 1 回巡回している。

平成 19 年度の動く図書館の年間貸出人数は 8,910 人(前年比 6.9%増)、年間貸出冊数は 80,042 冊(前年比 5.5%増)で、増加した。

また、予約の受付件数・提供件数は、ともに 20%以上の増加となっており、ステーションが予約資料の受取場所としても市民に活用されていることがわかる。

今年度は「とよ 1 号車」の更新に伴う施設・一般ステーションの見直しを図り、蛸池保育所については施設サービスを終了し、近隣の蛸池図書館での団体サービスに切り替えた。その他保育所 4ヶ所では、卒園するクラスを対象に、19 年度末もおはなし会を実施した。さらに支援学校・障害児通園施設では「おはなし指導者派遣事業」による出前おはなし会も行った。

ディーゼルエンジンの排気ガス規制による使用期限が平成 20 年 8 月までとなっている「とよ 1 号車」の車両更新については、平成 20 年度中にリースでの更新が決定した。

しばはら・おぞね・いぶきの 3 図書室には、それぞれ約 3,500 ~ 6,000 冊の資料があり、週 2 回、午後 1 時から 5

#### (4) 図書室

3 図書室のうち、いぶき図書室では第 1、第 2 水曜日、しばはら図書室では第 2、第 3、第 5 水曜日の午後 3 時から 3 時 30 分にボランティアの協力を得ておはなし会を行なっている。

平成 19 年度の年間貸出冊数・人数は、いぶき図書室はどちらも 10%程度の増加となっているが、しばはら、おぞね図書室については、どちらも減少傾向が続いており、おぞね図書室は平成 19 年度末をもって、しばはら図書室は平成 20 年 7 月に閉室することとなった。

#### (5) レファレンスサービス

日常生活での疑問・質問及び読書についての相談、調査・研究についての参考資料の提供は貸出サービスと並び図書館サービスの両輪となっている。そのサービスは全館的に増加傾向であり、また多様化している。

個人の教養的な調べ物から日常生活の実用知識、仕事のための情報や知識を得るための質問など、多様なレファレンスニーズに対応するため、国立国会図書館や府立図書館などとの連携の強化や、インターネットによるレファレンスに対応した環境の整備など進めていかなばならないが、情報の収集やその評価など課題も多い。

レファレンスサービスが市民にとって身近で有意義なサービスとなるには、職員のスキルアップ、市民も含めた情報探索のノウハウの蓄積が必要である。19 年度から問合せ種類別のレファレンス統計を取っており、サービスニーズをより詳しく分析していきたい。

読みたい本、調べたい本など見つからない時、1 人 10 冊までの範囲でリクエストができる。リクエストサービスは

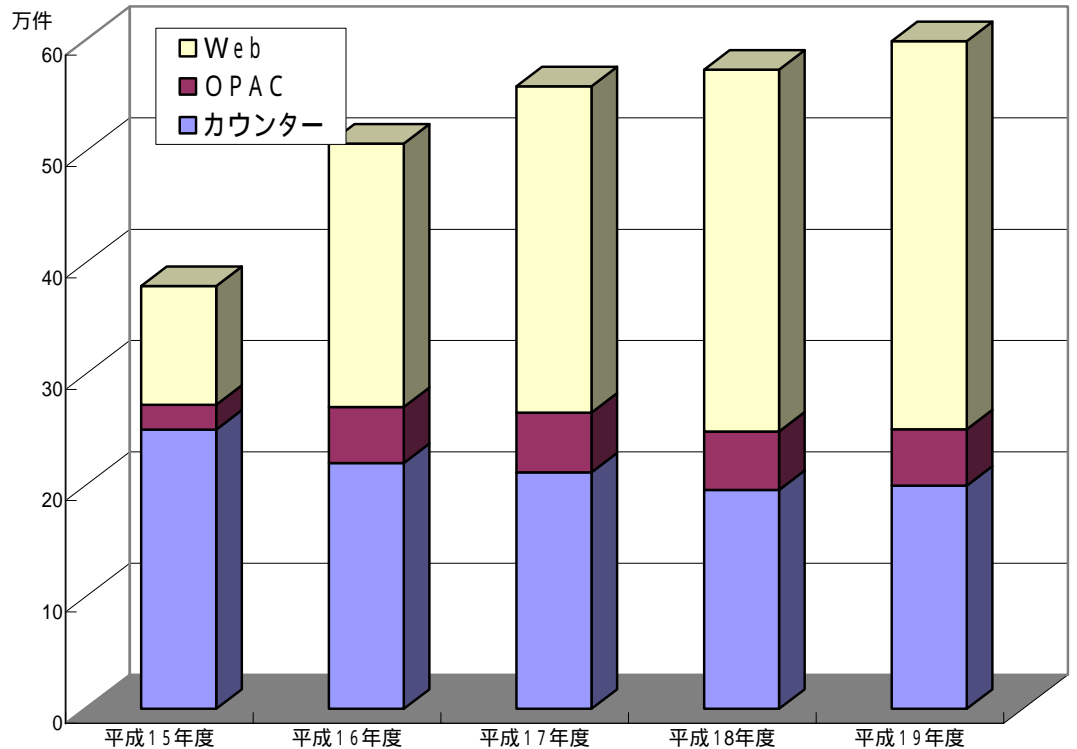
#### (6) リクエストサービス

ン)、WEB(図書館ホームページ)からのリクエストとに分けられる。リクエスト件数は平成 15 年 9 月に Web 予約が開始され、OPAC の利用と合わせ増加の一途をたどっている。19 年度総受付件数は 599,469 件、提供件数は 577,248 件である。Web 予約は 348,599 件、OPAC は 50,543 件、リクエスト票によるカウンターでの受付は、200,327 件であるが、Web 予約が開始以来、減少傾向が続いていたカウンターでの受付は今年度若干増えた。

市民の資料要求の多様化、高度化する一方で、

予約冊数の推移

資料購入費の減額により、豊中市図書館に所蔵していない資料のリクエストが増えたことが考えられる。他市との「相互貸借」は前年度 1,842 件、6,672 冊。19 年度は 1,886 件、7,243 冊と増えているが、財政状況の厳しい現在、豊中市の図書館資料を補完する意味でも他市との協力は必要である。



## (7) 障害者サービス・多文化サービス

### < 障害者サービス >

- ・ 市内在住者で、身体上の都合で来館できない方に、郵送または宅配により自宅まで資料を貸出している。
- ・ 視覚に障害がある方のために、録音図書(音訳図書やデージー図書)・点字図書を収集・貸出している。  
また、直接資料(お手持ちの資料・パンフレット等も可)を読む対面朗読も実施している。
- \* 音訳図書 = 目の不自由な方などのためにカセットテープにふきこんだもの
- \* デージー図書 = CD-ROM に音声情報を記録したもの
- ・ 耳の不自由な方には、手話・筆談等による対応を可能なかぎり行っている。また、高川・蛍池図書館には、磁気ループを設置している。
- ・ 小さい文字が読みにくい方のため、全館で大きな活字の本を収集・貸出している。岡町・

庄内・千里・野畑・高川・蛍池図書館に拡大読書器を設置している。

- ・ 録音図書、点字図書を作成するボランティアグループの活動を支援している。  
(音訳ボランティアフォローアップ研修講座の開催や、録音図書の著作権許諾手続き等。)
- ・ 動く図書館のステーションからの宅配や対面朗読の利用が増加している。

### < 多文化サービス >

- ・ 岡町図書館・子ども室の「世界のこどもの本の部屋」において、世界の色々な言語で書かれた子どもの本を収集・貸出している。
- ・ 外国語(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語)の利用案内を作成している。
- ・ 岡町・庄内図書館で行っている「おやこでほんご」では、国際交流センターが中心となり、豊中在住の外国人の親子の情報交流や、日本語を学ぶ機会づくりを提供している。
- ・ 岡町・庄内図書館では、外国人の方による母語での絵本の読み聞かせや手遊びなどをする「外国語のおはなし会」を行っている(不定期)。

## (8) 千里図書館リニューアル後の報告

千里図書館は平成20年1月14日から2月25日まで新施設に移転のため閉館し、2月26日にリニューアルオープンをした。サービスの充実に向けて以下のことを試みた。

- ・ 10代の人たちが必要とする資料・情報を提供するとともに、その世代が集いやすい環境を整えるためにヤングアダルト(YA)コーナーを設置。
- ・ ビジネス・商業地域の特性を活かしたビジネス支援を進めるため、新聞関係、法律関係、経営関係、雑誌関係のオンラインデータベースを導入。また、インターネット端末、パソコン持込用閲覧機を整備し、ITを利用した情報提供と環境づくりに努めた。
- ・ 資料の貸出し手続き忘れを防ぐため、ブックディテクションシステム(貸出手続き確認装置)を導入。
- ・ 開館時間を午後7時から午後8時に延長。

## (9) ホームページによるサービス

図書館サービスの情報発信のひとつとしてホームページからの情報提供が行われている。全国的には利用案内などのお知らせが一般的だが、豊中ではホームページアクセス件数は、書誌詳細3,708,953件(前年度2,878,886件)、予約確認2,497,462件(前年度1,624,958件)、検索結果一覧2,218,249件(前年度2,050,739件)が上位であり、大幅に増加している。これについてはWeb予約が伸びているのと同じように関連しているが、市民の図書館の利用の仕方、予約の仕方がインターネットによって変化していると思われる。Webで検索し、書誌詳細を見て予約をする人・来館前に予約の資料が取れているか確認する人・貸出状況や予約状況など確認のため利用する人も多い。

予約資料が確保された時、自宅のパソコンや携帯電話に希望により電子メールで連絡している。これからは携帯電話による情報へのアクセス、図書館のホームページにアクセスできるサービスなど検討していかねばならない。

## 千里図書館リニューアル当初の状況

開館日数	貸出人数				貸出冊数				返却冊数	新規登録
	一般	児童	団体	小計	一般書	児童書	その他	小計		
2/26～29 (4日)	3,672	280	61	4,013	9,969	2,230	498	12,697	10,773	318
3/1～31 (24日)	17,447	2,457	281	20,185	43,326	15,228	3,075	61,629	55,378	1,147
計	21,119	2,737	342	24,198	53,295	17,458	3,573	74,326	66,151	1,465

## (10) 広域利用サービス

平成 15 年 5 月蛭池図書館オープン時から豊中市と箕面市萱野南図書館の、館限定で始めた広域利用サービスは、平成 18 年度途中の 3 月 15 日から豊中市の千里図書館、箕面市の西南図書館を追加し、広域利用の試行期間を平成 21 年 3 月までとした。1 人 5 点、2 週間借出すことができる。予約は現在受付けていない。平成 19 年度の蛭池図書館から箕面市民への貸出は 1,610 点、千里図書館からは 4,781 点、箕面市の萱野南図書館から豊中市民へは 12,594 点、西南図書館からは 10,678 点である。

豊中市民と箕面市民の図書館利用の格差は依然  
 是正されていないが、平成 20 年 2 月 26 日にリニューアルオープンした千里図書館の 3 月の館の借出しは 2.6 倍に増えている。箕面市民との利用の均衡が望まれる。

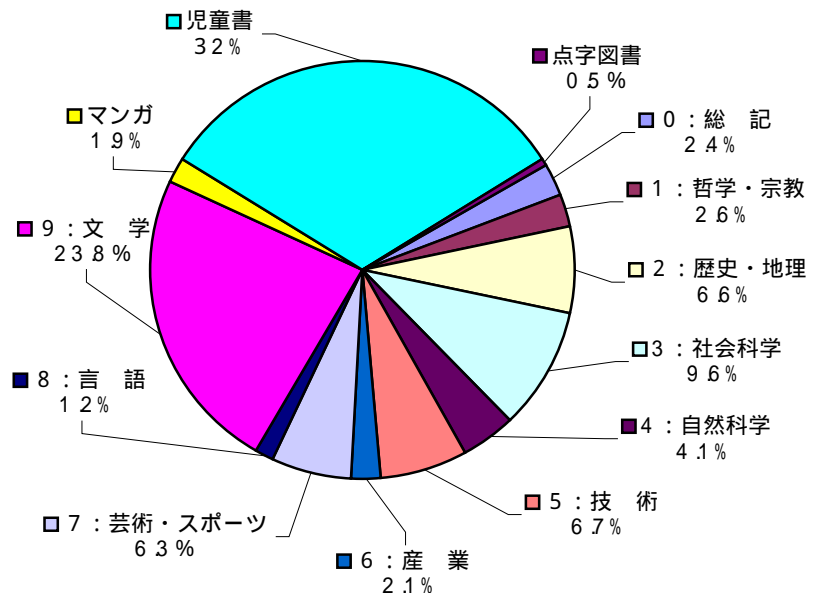
## (11) 資料の収集と保存

職員で構成する選書委員会（野畑図書館職員 6 名）が、毎週 1 回、市内全図書館の資料の選書を行う。選書にあたっては、市民の知的自由を保障し、人間的・文化的教養の醸成を支え、課題解決に資することを基本姿勢とする。教養・調査研究、レクリエーション、ビジネス、日常生活に役立つ資料等を収集し、各世代の幅広い要求に応えるよう努めている。また、資料の効果的な運用・保存についても検討中である。

## (12) 行事・事業

貸出サービス・レファレンスサービスなどの他、地域の中の図書館として集会・行事や研修など、館の規模、職場の条件に応じて各館積極的に取り組んできた。また、公共・公益施設、各種団体・機関とも協力連携し各種事業など文化活動を展開している。その過程で地域住民との協働・連携をとおして、図書館職員としての資質向上や意識変革、地域とのつながりを深めてきた。少子高齢化など地域社会の変化にともない、市民参加・協働・連携など事業をとおした地域の活性化、図書館サービスのあり方も問われている。

「図書」所蔵冊数（全館）分類別比率



平成19年度 図書館の活動 おもな結果

人口（推計）	388,134人
個人登録者数	164,992人
個人貸出冊数	3,347,745冊
団体貸出冊数	118,197冊
貸出人数	979,796人
年間受入冊数	52,292冊
うち購入冊数	46,388冊
年間除籍冊数	42,914冊
職員数	1 116人
図書購入費	72,057,689円

図書館数	2	9館、1図書室
動く図書館ステーション数		18カ所
動く図書館施設ステーション		9カ所
動く図書館貸出冊数		80,042冊
リクエストサービス受付件数		599,469件
レファレンスサービス	3	40,155件
蔵書冊数		1,094,838冊
ホームページアクセス件数 （トップページ）		936,619件
ホームページアクセス件数 （書誌詳細）		3,708,953件
消耗品的資料費	4	16,082,011円

データはおもに平成19年度末現在

- 1：職員数...平成20年4月現在の人数で、正職及び短時間職員、再任用職員、臨時職員の合計
- 2：図書室のうち、おぞね図書室は平成20年3月末閉室。しばはら図書室は平成20年7月末閉室
- 3：レファレンス、利用案内、資料案内等含む
- 4：消耗品的資料費...新聞、雑誌、CD等の資料費

ホームページアクセス件数の推移

